

八王子市地域共創アイデアソン

日時:令和6年(2024年)11月15日(金) 13時~17時

会場:東京たま未来メッセ 第2会議室

 八王子市

Contents

アイデアソンとは	3	トークテーマ	15
アイデアソンのゴール	4	グループトーク	22
地域づくりとは	5	発表方法	26
共創とは	6	共感方法	27
全体の流れ	7	表彰について	28
タイムスケジュール	8	留意事項等	29
モデレーター	9	諸権利について	30
スペシャリスト	10		
自己紹介	11		
ウォーミングアップ	12		

地域共創アイデアソンとは

地域づくり

×

共創

多様な主体が共に考え、創造的・実践的な
アイデアを生み出すイベント

地域共創アイデアソンのゴール

①参加いただいた皆さんが、
地域づくりのプレイヤーとして、
地域課題に対する**共創の視点や
考え方**を得ていること



②参加いただいた皆さん同士が
交流を深め、**新しいつながり**が
生まれていること



地域づくりとは

多様な人々が協力し合い、自分たちの住む場所を
より良くしていくための活動や取組みのこと

～地域づくり推進会議～

地域の住民や団体等が集まり、
地域のネットワークを広げてい
くためのプラットフォーム



共創とは

多様な主体が対話を通じて**共感し合い**、それぞれが持つアイデアやノウハウ、資源、ネットワークなどを結集することで、**社会や地域課題の解決に資する新たな価値を共に創出すること**

全体の流れ



○1グループあたり6名です。ファシリテーターはあらかじめ指名しています。

※なお、本事業のアイデアについて、実現を約束するものではありません。

タイムスケジュール

13:00~13:10	開会
13:10~13:40	自己紹介、ウォーミングアップ
13:40~15:30	グループトーク、まとめ、発表準備
15:30~16:00	全体発表
16:00~16:15	グループ発表(前半)
16:15~16:30	グループ発表(後半)
16:30~16:40	休憩
16:40~16:55	表彰式、スペシャリスト講評
16:55~17:00	閉会
17:00~17:20	歓談
18:00~20:00	懇親会

モデレーター



事業構想大学院大学

客員准教授 中川 悦宏 先生

元横浜市役所職員 公民連携専門部署に従事
グローバル系コンサルティングファーム 所属
株式会社ソーシャルエックス 主任研究員

地域づくりスペシャリスト



東京都立大学

法学部 教授 大杉 寛 先生



法政大学

社会学部 准教授 谷本 有美子 先生

(参考) <https://shop.gyosei.jp/online/archives/cat01/0000041304>

(参考) <https://www.hosei.ac.jp/tama/info/article-20210520133624/>

自己紹介

制限時間は10分です

ルール

「次のお休みの日にしたいこと」を交えながら
一人1分で話してください

ウォーミングアップ

問いづくりゲーム

ハテナソンカードで頭の体操をしましょう



ハテナソンカードとは？

NPO法人ハテナソン共創ラボから販売されている「ゲームを通して問いを作るトレーニングができるカード」です。



「良い問い」ではなく、「たくさんの問い」をつくりましょう

ウォーミングアップ

問いづくりゲームの手順

- ① 問題と、問いづくり3箇条を全員で確認してください。
- ② ファシリテーターがカードの山からカードを一枚、メンバーからよく見えるようにめくり、**5秒**数えます。
- ③ そのカードをもとに、**一番早く問い(疑問)を言葉にできたメンバーがカードを貰います。**
- ④ 5秒以内に問い(疑問)が出なければ、カードはファシリテーターのものになります。
- ⑤ ②～④を**5分間**繰り返し、**最も多くカードを取ったメンバーの勝ち**です。

※上記の手順を、第1問、第2問の順で行います。

ウォーミングアップ

問題は全部で2問です

第1問 八王子の新しいソウルフードのアイデア

第2問 八王子の新しい観光名所のアイデア

問いづくり3箇条(NPO法人ハテナソン共創ラボによる)

- ① 問いづくりに慣れ親しもう！
- ② 問いづくりを楽しもう！
- ③ たくさん問いを作ろう！

トークテーマ

ここからはグループトークです。
グループでテーマを1つ選択してください

A	若い世代が生まれ育った地域に戻ってきたくなる、 地域でできるアイデア
B	地域ボランティアへの自発的な参加を増やすための アイデア
C	地域のお祭りを若い世代に継承していくための アイデア

トークテーマ

テーマA

若い世代が生まれ育った地域に戻ってきたくなる、地域でできるアイデア

背景

- 生活の利便性や新しい経験、新たな挑戦の場を求めて、地元を離れる若い世代が増加しています。
- 都市部の生活で築いた友人関係、職場ネットワークが定住する要素となり、地元へ戻らない現象が生じています。

目指す姿（ビジョン）

次世代を担う若者が生まれ育った地域で愛着をもち、一度転居したとしても戻ってくる地域になっている。

- **若い世代**: おおむね20代～30代の人で、居住地は問いません。
- **生まれ育った地域**: 生まれてから高校卒業までで、一番長く過ごしたまち
- **戻ってくる**: その地域に定住するということに限らず、一時的に滞在することも含みます。
- **地域でできる**: 町会・自治会、住民協議会、地元企業、地域のNPOなど生まれ育った地域に関係する個人又は団体でできること。

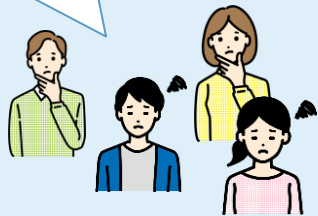
トークテーマ

テーマA 困り事のイメージ

地域

地域に関わる人は高齢の方ばかり。これ以上、地域の行事を続けられない…

これまで地域のためにやってきたことも続けられなくなってしまおう…



住民

若い人が減ると、災害時などが心配…

まちに活気がなくなって寂しい…



行政

地域の高齢化が進み、地域活力の低下、地域経済の停滞につながる恐れがある…

地域の高齢化が進むと、地域での支え合いが困難になるが、市としても今以上のサービスは難しい…



トークテーマ

テーマB

地域ボランティアへの自発的な参加を増やすためのアイデア

背景

- 少子高齢化や個人主義を受け、地域活動に参加するプレイヤー（関係人口）が減少しつつあり、活動の縮小や廃止を迫られる状況が生じている。
- 地域住民同士の関係性が低下し、地域における困りごとが放置されて生活の質の低下を招く恐れがある。
- 地域住民の地域への愛着や誇りの低下を招く恐れがある。

目指す姿（ビジョン）

様々な地域のボランティア活動が活発になり、地域住民同士の関係性が強くなっている。

- **地域ボランティア**：環境保護や福祉支援、交通安全、防災、教育など、地域社会での活動を支援するため自発的に時間や労力を提供すること。
- **自発的**：興味や関心に基づいて、他者からの強制や義務感ではなく、自分の意思で参加すること。
- **参加**：企画や運営に携わる人から、単に楽しもうとする人まで。参与の度合いは問わない。

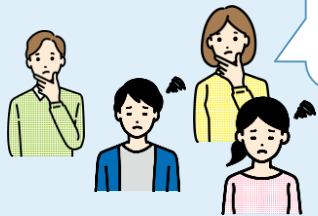
トークテーマ

テーマB 困り事のイメージ

地域

住みやすいまちにしたいけど、
普段仕事もあるし…

あまり地域に興味がない人が増えて
いるから、地域で助け合えるか心
配…



住民

ボランティアで登下校の見守りをし
てくれていたけど、人手不足で廃止な
ってしまった…

川や道路のごみが増えて
不快だけど、行政がやっ
てくれるまで待つか…



行政

まちの清掃や高齢者の支
援など、地域の中で対応
が難しくなっているが、行
政サービスで網羅するの
にも限界がある…

ボランティアの参加を増
やしたいけど、市から願
いすると自発性に欠けて
継続が難しい…



トークテーマ

テーマC

地域のお祭りを若い世代に継承していくためのアイデア

背景

- 地域のお祭りにおいて、企画や運営等に若者の関与が減少し、知識や技術の断絶が進んでいる。
- 地域の行事が消えてしまう恐れがあり、それは地域住民の地域への愛着や誇りの低下を招く恐れがある。

目指す姿（ビジョン）

地域文化を若い世代に継承することで、次世代を担う若者たちが、地域に愛着や誇りを持つ。

- **地域のお祭り**：地域の文化や歴史、宗教的な要素の反映は問わず、特定の地域で年次または定期的に行われる伝統的な行事や祝祭のこと。
- **若い世代**：将来の地域社会プレイヤーとして期待される、学生や若手社会人を含む主に30代以下の年齢層のこと。
- **継承**：地域の思いや技術等が、可能な限り原型を保ったままの状態に限らず、発展的に形を変えている状態も含め、柔軟に引き継がれていくこと。

トークテーマ

テーマC 困り事のイメージ

地域

せっかく歴史ある行事なのに、それを引き継いでくれる人がいない…



お祭りがなくなってしまうと、地域の人たちの顔も分からなくなってしまう…

住民

友達とお祭りに行くのを楽しみにしていたのに、なくなってしまうなんて…



地域の魅力が伝わらないから、地域に興味を持ってもらえないのかな…



行政

地域のお祭りがなくなってしまうと、地域コミュニティが衰退していく恐れがある…

地域の歴史や文化が失われてしまうと、地域に愛着を持ち関わってくれる人が減ってしまう…



グループトーク

グループで発表方法を1つ選択してください

発表方法	詳細
プレゼンテーションソフト	参加者が持ち込むPCやタブレット端末を使用して、PowerPointやGoogle Slides等で発表します。会場にあるキャスター付き大型モニターを活用することで、メンバー全員で確認し合いながらまとめることができます。全体発表の際は、会場のプロジェクタに接続し発表していただきます。
ホワイトボード	意見の取りまとめ用に各グループ1枚お渡しするホワイトボードをそのまま使用して発表します。原則として1グループ1枚でお願いします。
ポスター	A0サイズの模造紙を使用し、発表時はホワイトボードに貼り付けます。

グループトーク

発表者・書記・グループ名を決めてください

発表者	<p>①全体発表 ②グループ発表(前半) ③グループ発表(後半)の発表者をそれぞれ決めてください。</p> <p>全体発表の発表者は2名以上でも構いませんが、グループ発表の発表者は、前半・後半各1名としてください。 全体発表とグループ発表は同じ人でも構いません。 グループ発表の前半・後半を同じ人が行うことは出来ません。</p>
書記	<p>出たアイデアや意見を書き出します。何名でも、途中で交代しても問題ありません。</p>
グループ名	<p>14:30頃までにグループ名(15文字以内)を決定し、「共感シート(A3縦)」に手書きで記載してください。 (共感シートは、グループ発表で使用するので、15:30までに完成させてください。)</p>

グループトーク

トークルール

①たくさんのアイデアを出す

小さな気づきでも発言しましょう。

②アイデアを否定しない

自分と異なる意見でも尊重しましょう。

③エンジョイ&リラックス

コーヒーブレイクしながら楽しみましょう。

留意事項

・主体的で具体的なアイデア

皆さんがプレイヤーとなるアイデアが望ましいです。できるだけ具体的にまとめてください。

・発表するアイデアは原則1つ

複数アイデアがある場合でも、最も推したいアイデアが分かるようにまとめてください。

グループトーク

発表資料

・必須で入れる項目

- ① グループ番号(1G~5G)
- ② 選択したテーマ(A~C)
- ③ グループ名
- ④ アイデアのタイトル

・その他の任意項目(参考)

※まとめ方は自由です

- ・アイデアのワンシーンをイラストで描いてみる
- ・アイデアの生み出す価値を図にしてみる
- ・関わる人やメリットのある人(ステークホルダー)
- ・アイデアのアピールポイント など

事例紹介(参考)



・ソトコト

<https://sotokoto-online.jp/>



・ミライコトハジメ

<https://project.nikkeibp.co.jp/mirakoto/>



・地方創生関連事例

https://www.chisou.go.jp/sousei/data/case_index.html



他にも多くの事例があるので検索してみてください

発表方法

発表は全部で3回です

5分×5G

全体発表

- 会場正面で発表します
- 質疑応答はありません

15分

グループ発表
(前半)

- 会場後方のブースで発表します
- 他のグループのブースを回り、質疑や共感を行います
(ポスターセッションのイメージです)

15分

グループ発表
(後半)

- 発表者を交代します

共感方法

グループ発表でアイデアに共感したら・・・

他グループのアイデアを「いいね!」と思ったら、
グループの**共感シート**に**シール**を貼ります。

※自分のグループにシールを貼ることや、同じグループに2枚貼ることはできません。

〈ポイント(シール)一覧〉

参加者	1点2枚	計2点
モデレーター	5点2枚	計10点
スペシャリスト	5点2枚	計10点

グループ(1G~5G) 選択したテーマ(A~C) 共感シート

グループ名

アイデアのタイトル

一言コメント(日本語のみ、500文字以内)

↓ アイデアに共感 ↓

ここにシールを貼る

表彰について

共感ポイントが高い順に全てのグループを表彰します

順位	名称	グループ数
1st	共創イノベーション賞	1
2nd	地域づくり賞	1
3rd	アイデア賞	3

○表彰式では、代表者1名に表彰状をお渡しします。

○表彰状は、イベント終了後グループメンバー全員にお渡しします。

留意事項等

諸権利について

成果物の権利

本事業において参加者が作成した文章や音声、関連データ等の一切の成果物に関する著作権(著作権法第27条及び第28条の権利その他の権利を含みます)、特許権、実用新案権、意匠権、商標権等の知的財産権(これらの権利を取得し、又はこれらの権利につき登録等を出願する権利も含むもの)とします。以下、合わせて「知的財産権」といいます)その他一切の権利は、本イベント参加者、主催者側関係者(モデレーター、ファシリテーター、スペシャリスト)及び主催者が無償で自由に利用可能であるものとします。

アイデアの権利

本イベントにおいて参加者が提供したアイデア(コンセプト及びノウハウ等を含みます)は、人類の共有財産(パブリックドメイン)として、他の参加者を含めた第三者が、無償で自由に利用することができます。

使用範囲

本事業を主催する事務局や全ての参加者(モデレーター、スペシャリスト、ファシリテーター含む)は、成果物を広告宣伝又は研究目的のために、ホームページや広報等の冊子(SNSを含む)、チラシ等の宣伝販促物に掲載、公開することができます。

留意事項等

写真撮影

イベントの様子は市広報への掲載や、市ホームページでの公開を予定しています。同意いただけない場合は、事務局までお申し出ください。



広報特集号(2024.3.1号)

参加者アンケート

右の二次元コードからご回答をお願いします。



ありがとうございました

あなたのみちを、
あるけるまち。

